

学校教育目標	夢と志をもち、主体的・協働的に学ぶ児童の育成	経営理念	Oミッション: 確かな学力を身に付け、心豊かでたくましく、主体的に取り組み児童の育成 Oビジョン: 「学んでよかった」「来させてよかった」と信頼され期待される学校づくり ・児童が学びたい学校 ・教職員が誇りとやりがいをもてる学校 ・保護者や地域が通わせたい学校
--------	------------------------	------	--

評価計画					自己評価					学校関係者評価 (学校運営協議会による評価)		改善方策		
項目	重点	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目	目標値	達成値		達成度	評価	結果と課題の分析	評価	コメント	改善方策
							11月	2月						
確かな学力	1	確かな学力の定着と主体的・対話的で深い学びの実現	O「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的にとらえた授業づくり	O 3部会制による校内研究の推進と8本の研究授業の実施	・教職員の意識調査 【「授業力が向上した」と回答した教職員の割合】	85%以上	96.8%	113.9%	4	「学びの变革」についての校内研修や6回の研究授業を実施し、教職員の授業力が向上してきているといえる。授業力が向上するよう、さらに研修を進めていく。	A	・目標値を大きく上回っているため、目標の妥当性を検討すべき。 ・研究授業で分かったことを、日々の授業にどう生かすかが大切。 ・研究主題を平素から意識しながら授業を行うことで、授業力を高めてもらいたい。	・算数科については、テスト等の結果を分析し、実態を把握する。 ・課題を改善するために、満足感や達成感を持たせることができるような授業改善や個に応じた指導など工夫を行う。 ・来年度は目標値の妥当性について検討しながら目標を設定する。	
					・児童の意識調査 【「授業が分かる」と回答した児童の割合】	85%以上	95.3%	112.1%	4	校内研修や研究授業の実施が、授業力の向上につながり、目標値を上回ることができた。引き続き研修を進め、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的にとらえた授業づくりに取り組んでいく。	A	・研究授業をする中で、教員が互いに向上し、児童に分かりやすい授業を行い、学校に行くのが楽しいと思えるようにすることが必要。		
					・国語・算数単元テスト平均 【正答率60%未満】 ・標準学力調査 【正答率40%未満】	10%以下	1.6%	625.0%	4	確かな学力の定着を意識した授業づくりや取組によって、目標値を大きく上回ることができた。学年や教科によって差があるので、結果を分析し、さらに取組を進めていく必要がある。	A	・算数の学力の個人差を最小限にするために、テスト等の結果を分析して、指導の工夫を行う必要がある。		
					・教職員による実態調査 【学習規律が定着している児童の割合】	80%以上	7.6%	131.6%	4	正答率40%未満の児童は、国語科5.8%、算数科9.4%で算数科の方が多い。算数科は、研究教科ではないが、積み上げが大事な教科なので、学年等で取組を進めていく必要がある。	B	・個別の学習が必要な児童たちの、満足感や達成感を上げるための学びの充実が大切。 ・正答率の低い児童へのきめ細やかな指導に向け、取組を進めてもらいたい。 ・学習規律を定着させるのは、家庭との協力も必要であり、難しい課題である。日々の積み重ねが大切。		
豊かな心	2	自他を尊重し規範意識の高い心情や態度を育む	O 寺西「5つの宝」を高いレベルで実行する児童の育成	O「時を守り、場を清め、礼を正す」を定着させる。	・児童生活アンケート 【「宝もちのよいあいさつをしている」の項目に「3」以上の自己評価をしている児童の割合】	80%以上	87.1%	108.9%	4	寺西「5つの宝」を毎朝確認し、挨拶の大切さを確認したり、教職員からの進んで挨拶をしようという結果が、アンケートの結果に表れきたと思われる。	A	・約束事を確実に守り続ける指導法の工夫が必要。 ・アンケートだけでは分からない部分もあるのではないか。 ・家庭や学校での大人が態度で示すことが大切。	・まずは、学校や家庭において大人が態度で示していく。 ・児童間では、高学年がお手本になるよう指導する。 ・自己肯定感を高めることができるよう児童の良い面にしっかりと目を向けていく。	
					・児童生活アンケート 【「学校へ行くのが楽しい」の項目に「3」以上の自己評価をしている児童の割合】	80%以上	89.4%	111.8%	4	日々の実践として、分かりやすい授業を行うことに努めたり、円滑な学級経営を行ったりしていった。そのことが、児童の自己肯定感に表れてきていると考えられる。	A	・児童と保護者の評価が一致するように、取組を推進してもらいたい。高学年の手に期待したい。 ・しっかりと自己肯定感を高めてもらいたい。		
健やかな体の育成	3	健康の保持増進と体力の向上	O 運動好きな児童を育てる	O 運動の楽しさを実感させる体育科授業の実施。	・児童アンケート 【「運動が好き」と回答した児童の割合】	85%以上	86.2%	101.4%	3	体育科の校内研修や研究授業の実施を通して、体育科への取組が改善されたことで、目標が達成できた。今後も研修を通して、運動好きな児童をさらに増やしていく。	B	・家庭や地域で行う運動に参加させることが良い。 ・運動の質より量を確保できるような取組が必要。 ・運動嫌いを解消できるような学びの工夫が必要。 ・運動をする子の二極化を解消し、楽しく運動できる体育科の授業を通して、体力の向上につなげてもらいたい。	・引き続き体育科の授業改善に取り組み、運動量を確保したり、運動の楽しさや友達と一緒に体を動かす心地よさを味わせたりする。	
					・教職員アンケート 【「運動をする時間が授業時間の4割以上である」と回答した割合】	80%以上	100.0%	130.0%	4	指導者が体育科授業における運動量の確保を意識して授業づくりをしていることが、この結果につながった。さらに、運動量が確保できるように、研修と連携して取組を進めていく。	B	・運動は、仲間づくりにもつながっていくので、友達と一緒に体を動かす心地よさをしっかりと味わわせてもらいたい。		
信頼される学校づくり	4	安心・安全な学校づくりを推進し、地域・保護者から信頼され期待される学校	O ICTを活用した積極的な学校情報の発信	O 学校だよりやホームページ等で積極的に情報発信する。	・学校評価アンケート 【「学校のことが以前よりわかるようになった」と回答した保護者の割合】	80%以上	85.6%	107.0%	3	数値は、15.6ポイント上回ることができた。しかし、自由記述からは、発信方法の在り方について、メールやブログなどのSNSによる迅速な発信への要望もあり、今後検討していく必要がある。	B	・保護者の意見のとおり、迅速な情報発信が必要。 ・ICTを活用しての情報共有が増えることよい。 ・HPを観る人と見ない人に分かれるのではない。 ・更新数が増えると、見る人が増える。日常的に児童の様子に分かると、学校の信頼度も上がる。 ・リアルタイムの情報発信は大切であるが、教員の負担にならぬようにしてもらいたい。	・ICTを活用し、迅速な情報発信を行う。 ・HPIについても、更新数を増やすよう担当者を中心に取り組んでいく。	
					・学校評価アンケート 【「学校は地域・保護者とともに教育活動を行っている」と回答した保護者の割合】	80%以上	93.5%	116.9%	4	3年ぶりの行事の再開が進んでいる中で、保護者や地域の方々の協力が得られるようになっていく。自由記述からは、もっと積極的な要請があってもよいとの意見もあったので、協力依頼を増やしていきたい。	A			
					・定時退庁推進日を設定し、教職員の業務改善を促進する意識向上を図る。	80%以上	17.0%	0.2%	1	職員の約半数が18:00時点で残っているが、18:30にはおおむね退庁できるようになっている。業務の整理と退庁の効率化をさらに推進し、目標達成の意欲を醸成していく。	D	・何をどこまでやるのか、誰がどの役割を担うのかなど、業務の在り方をはっきりと共有することが必要。 ・業務の整理や効率化を進めることが大切。 ・早く退庁できない要因を明らかにし、その改善を図ることが必要。 ・事務作業の簡素化を、教育委員会を中心に進めてもらいたい。仕事も家庭も大切にできる職場にしたい。		
○子供と向き合う時間の確保と時間外在校時間等勤務削減に取り組む	○地域・保護者と協働した取組を推進する。	・業績評価書における、各教職員の取組みを共有する。	・業績評価書に係る評価平均	3.0以上	2.9	96.6%	2	職員は働き方改革に取組み、児童に関わる時間の確保に努めるなど成果が表れている。しかし、教職員自身の自己評価が厳しく、目標値には達しなかった。	C	・今、行っている業務を各部署等で再度見直し、整理・効率化を進める。 ・働き方改革に取組む目的を再度認識し、それぞれの工夫を共有したり、業務を分担しあったりしていく。				

※目標の精選と重点化を行い、重点の項に「1」「2」「3」で表示する。

■自己評価  
 4...目標を上回って達成      3...目標どおりに達成  
 2...目標をやや下回って達成      1...目標をかなり下回って達成

■学校関係者評価 (学校運営協議会による評価)  
 A...とても適切である      B...概ね適切である  
 C...あまり適切でない      D...全く適切でない  
 (N...判定できない)